

令和8年7月15日
総務市民局地域振興課

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」に対する 市民意見の募集結果について

1 意見募集期間 令和8年4月28日(火)から令和8年5月28日(木) (31日間)

2 意見提出状況

(1)提出者 39人

(2)提出意見数 121件

(3)提出方法

方法	電子申請	電子メール	FAX	持参	郵送
人数	25人	7人	3人	3人	1人
件数	42件	44件	5件	25件	5件

(4)意見の内訳

項目	件数
ビジョン全体に関わるもの	88件
1. 人々の暮らしを支えるコミュニティ	1件
2. 人情大都市・北九州市	0件
3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ	4件
4. 課題先進都市・北九州市が地域コミュニティの再生と改革に挑む	0件
5. 地域コミュニティのあり方に対する意見	5件
6. 「共助が働きやすいまち (Mutual city)」へ	3件
7. 地域コミュニティのリ・デザイン	1件
8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」	8件
9. 課題を価値に変えるフロントランナーへ	1件
その他	10件

3 意見の反映状況

分類	件数
1 既に掲載済	42件
2 追加・修正あり	17件
3 今後の参考とするもの	34件
4 追加・修正なし	14件
5 その他	14件

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」の修正箇所について

修正1

【市民意見の概要】

国や本市が推進している「地域共生社会」の実現に向けた取組について、本ビジョンの中でも言及すべきである。

【修正内容】

修正前		
3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ(P11 図7)		
主な政策文書・答申	主な認識等	主な対応の方向性等
地域コミュニティに関する研究会報告書 (令和4年4月 総務省)	自治会等の加入率の低下、社会構造の変化、地域課題の複雑化に加え、コロナ禍の影響による地域活動の停滞に対し、持続可能な地域活動への対応が必要	持続可能な地域活動のため3つの視点を提示 ①地域活動のデジタル化 ②自治会等の活動の持続可能性の向上 ③様々な主体間の連携
ポストコロナの経済社会に対応する地方制度のあり方に関する答申 (令和5年12月 総務省)	地域社会においては今後人口減少等による人手不足や複雑化する課題について、コミュニティ組織、NPO、企業等が連携・協働し、サービスの提供や課題解決の担い手となる必要がある	地域コミュニティ活動の持続可能性の観点から、デジタル技術の積極的な活用が求められると同時に、自治会・町内会については行政とのパイプ役に関する業務の効率化が求められる
「地域における多文化共生推進プラン」の改訂 (令和2年9月 総務省)	近年、中長期的な在留展望を持つ外国人住民の増加、年齢構成が若いことを踏まえ、地域社会の担い手となる取組が必要	自治会やNPO等と連携した生活オリエンテーションの実施や、地域社会(自治会、商店街、PTA等)への参画を促進する
孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画 (令和6年6月 内閣府)	近年顕在化する孤立死者数の増加や将来の単身高齢世帯の増加を踏まえ、「孤独・孤立双方への社会全体での対応」が必要	福祉分野を中心とした個別支援に留まらず、より広いまちづくりの観点から地域における様々な主体が孤独・孤立対策に資する取組を行う
修正後		
3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ(P11 図7)		
主な政策文書・答申	主な認識等	主な対応の方向性等
地域コミュニティに関する研究会報告書 (令和4年4月 総務省)	自治会等の加入率の低下、社会構造の変化、地域課題の複雑化に加え、コロナ禍の影響による地域活動の停滞に対し、持続可能な地域活動への対応が必要	持続可能な地域活動のため3つの視点を提示 ①地域活動のデジタル化 ②自治会等の活動の持続可能性の向上 ③様々な主体間の連携
ポストコロナの経済社会に対応する地方制度のあり方に関する答申 (令和5年12月 総務省)	地域社会においては今後人口減少等による人手不足や複雑化する課題について、コミュニティ組織、NPO、企業等が連携・協働し、サービスの提供や課題解決の担い手となる必要がある	地域コミュニティ活動の持続可能性の観点から、デジタル技術の積極的な活用が求められると同時に、自治会・町内会については行政とのパイプ役に関する業務の効率化が求められる
「地域における多文化共生推進プラン」の改訂 (令和2年9月 総務省)	近年、中長期的な在留展望を持つ外国人住民の増加、年齢構成が若いことを踏まえ、地域社会の担い手となる取組が必要	自治会やNPO等と連携した生活オリエンテーションの実施や、地域社会(自治会、商店街、PTA等)への参画を促進する
孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画 (令和6年6月 内閣府)	近年顕在化する孤立死者数の増加や将来の単身高齢世帯の増加を踏まえ、「孤独・孤立双方への社会全体での対応」が必要	福祉分野を中心とした個別支援に留まらず、より広いまちづくりの観点から地域における様々な主体が孤独・孤立対策に資する取組を行う
地域共生社会の在り方検討会議 中間とりまとめ(令和7年5月 厚生労働省)	2040年に向けて、全ての市町村で、福祉分野を超えた連携や地域との協働が進み、包括的な支援体制の整備を通じた地域共生社会の実現が図られることを強く祈念	①地域共生社会の更なる展開(多様な主体による協働など) ②身寄りのない高齢者等への支援の充実 ③権利擁護支援(成年後見制度等)の充実 ④社会福祉法人等による地域共生社会の推進 ⑤災害に備えた福祉支援体制の強化

修正2

【市民意見の概要】

- ・ 共働き世帯の増加により、子育て世帯には時間的・体力的余裕が少ない現状がある中で、地域参加を広げるには「子どもが主役になれるコミュニティづくり」が重要。子育て世帯は、子どもの学びや体験につながる活動には積極的である。子どもが地域で楽しく活動することで保護者も地域と自然と接点を持つことができる。地域での体験や貢献の記憶は、将来のシビックプライドや「北九州に帰ってきたい」と思える土台になると考える。
- ・ 素案 p.45 の「ウォーカブル・コミュニティ・シティ」の将来像に、子どもが安心して育ち、愛着を持てるまちであるという視点を明示的に組み込むべきである。

(他に同様の意見複数あり)

【修正内容】

修正前	修正後
6.「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ(P28) たとえば、ご近所で自然にあいさつを交わすこと。顔見知りがいるという安心感が、いざというときの助け合いや、日ごろの防犯にもつながっていきます。 <u>子どもたちが地域の伝統行事を楽しみながら成長し、シニアがこれまで培った経験を活かして活躍し、若い世代の声も地域づくりに活かされること。</u>	6.「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ(P28) たとえば、ご近所で自然にあいさつを交わすこと。顔見知りがいるという安心感が、いざというときの助け合いや、日ごろの防犯にもつながっていきます。 <u>子どもたちが地域の人々とのふれあいや伝統行事、まちづくり活動への参加を通じて、自分のまちへの愛着と誇りを育みながら成長すること。シニアがこれまで培った経験を活かして活躍し、若い世代の声も地域づくりに活かされること。</u>
8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」 (4) つながりを生む場をつくる「地域 × “居場所”」(P38) 例えば、気軽に立ち寄ることのできる地域のカフェで顔見知りができ、世間話を重ね、ゆるやかなつながりが広がっていく。何かのきっかけで、その地域の活動を知り、興味を持ち、参加へとつながっていく、といったように、参加しやすい地域への「入口」となることが期待されます。	8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」 (4) つながりを生む場をつくる「地域 × “居場所”」(P39) 例えば、気軽に立ち寄ることのできる地域のカフェで顔見知りができ、世間話を重ね、ゆるやかなつながりが広がっていく。<u>子どもたちが立ち寄ったり、遊んだりする場では、保護者も自然と地域に足を運び、地域の人々との顔見知りの関係が生まれ</u>ていく。何かのきっかけで、その地域の活

	動を知り、興味を持ち、参加へとつながっていく、といったように、参加しやすい地域への「入口」となることが期待されます。
9. 課題を価値に変えるフロントランナーへ (P45) さらに、市民センターや地域の広場、学校、商店街などを舞台に、祭りやマルシェ、学び合い、健康づくり、文化活動が身近に行われることで、「今日はちょっと行ってみよう」「誰かに会えるかもしれない」と思える楽しさも生まれること。	9. 課題を価値に変えるフロントランナーへ (P47) さらに、市民センターや地域の広場、学校、商店街などを舞台に、祭りやマルシェ、学び合い、健康づくり、文化活動が身近に行われることで、「今日はちょっと行ってみよう」「誰かに会えるかもしれない」と思える楽しさも生まれること。<u>そうした場で子どもたちが地域の歴史や文化に触れ、地域の大人たちとの交流を重ねながら、自分のまちへの愛着を育んでいくこと。</u>

修正3

【市民意見の概要】

本ビジョンの「利他が息づく」という理念に深く共感する。近年「他人に迷惑をかけてはならない」という意識の広がりや、つながりを希薄化させているが、人は必ず誰かの世話になる。それを迷惑ではなく「縁」や「ありがたい」と感じ合える関係こそが共助の土台であり、PTAはその文化を育む地域コミュニティの重要な担い手である。素案の「車座スタイル」に PTA が明記されたことを心強く思う。PTA が「義務」ではなく「地域への入口」となるよう、行政による理解促進と明確な位置づけをさらに強調することを強く要望する。

(他に同様の意見複数あり)

【修正内容】

修正前	修正後
7. 地域コミュニティのリ・デザイン (2)多様な主体との協働の促進(P32) これからは、既存の地域団体を土台としながらも、行政はもちろんのこと、企業やNPO、大学、学校、地域外の関係者など、多様な主体が地域課題を共有し、それぞれの強みや専門性を活かして関わる協働へと転換していくことが求められます。	7. 地域コミュニティのリ・デザイン (2)多様な主体との協働の促進(P32) これからは、既存の地域団体を土台としながらも、行政はもちろんのこと、企業やNPO、大学、学校、<u>PTA</u>、地域外の関係者など、多様な主体が地域課題を共有し、それぞれの強みや専門性を活かして関わる協働へと転換していくことが求められます。
8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」 (3) 多様な主体と協働する「地域 × “企業・大学・NPO…”」(P37) 記載なし	8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」 (3) 多様な主体と協働する「地域 × “企業・大学・NPO…”」(P38) <u>また、子どもを中心とした地域づくりに学校や PTA、地域団体が連携して取り組む地域もあります。見守り活動への参加や学校行事の運営などを通じて、自らの子どもだけでなく、地域の子どもの健全育成に関わっていく。ひいては、保護者同士だけでなく地域住民とのつながりが生まれ、その後の地域活動へと広がるきっかけとなる、といったように、子どもを中心とした活動が、地域の連携を強めるカギともなっています。</u>

修正4

【市民意見の概要】

人はそれぞれ多様な人生や仕事の経験を持っており、その知識や情報は将来の糧となり、人生が有意義なものとなり、得た情報は自分の宝物となる。地域や町内の専門家や高齢者、医療系など現役で仕事をしている方との交流を通じ、育児や教育、健康や介護の知識を深めることは、不安を軽減し将来の役に立つ。こうした交流は住民の孤立を防ぎ、楽しく明るい地域づくりにも効果があると考えます。

【修正内容】

修正前	修正後
8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」 (6)経験を地域の力としてつなぐ「地域×“経験”」(P40) そこで、新たに令和8年度から展開する「ケイケン・タカラプロジェクト」では、<u>シニアの方々が長年培ってこられた豊かな経験を、次世代へとつないでいく登録制度を創設し、地域活動等で発揮できるフィールドを紹介するほか、日頃から地域を支えていただいている方の挑戦や活躍を、「地域の宝」として幅広く発信するなど、活動に対する市民の思いを見える化していきます。</u>	8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」 (6)経験を地域の力としてつなぐ「地域×“経験”」(P41) そこで、新たに令和8年度から展開する「ケイケン・タカラ プロジェクト」では、そこで、新たに令和8年度から展開する「ケイケン・タカラ プロジェクト」では、<u>シニアの方々が長年培ってこられた豊かな経験を、次世代へとつないでいく登録制度を創設し、地域活動等で発揮できるフィールドを紹介するほか、日頃から地域を支えていただいている方の挑戦や活躍を幅広く発信し、多世代との交流を生み出すなど、シニアの方々が持つ経験という「タカラ」をまちの「チカラ」へとつないでいくことを目指します。</u>

※文章の趣旨や意味に影響を及ぼさない軽微な修正(表記の統一、送り仮名の整理等)については記載を省略しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
《ビジョン全体に関わるもの》			
1	共働き・子育て世帯として地域とのつながりは必要と感じる一方、自治会加入による負担感・不公平感がある。回覧板に手間を感じており、情報共有の方法は他にあると思う。若い世代も他の地域活動(小学校の役員など)を担っている。ビジョンを作ろうとしていること、意見を聞こうとしていることはいいことだと思う。	「7. 地域コミュニティのリ・デザイン」に記載したように、仕事や育児に忙しい世代が無理なく関わられるよう、地域コミュニティへの参加のきっかけ、担い手のあり方、活動を支える基盤のそれぞれについて発想を転換し、地域コミュニティのあり方を見直してまいります。 いただいたご意見につきましては、その中で参考とさせていただきます。	1
2	マンションや新興住宅地の増加、町内会等加入の減少と負担の増加、まちづくり協議会活動が浸透していない現状、防犯防災啓蒙活動や消防団への参加減少、転入者の参加減少、NPOの認知不足が課題となっている。マンションの組合組織だけで十分と満足している住民がいる現状、地域コミュニティの必要性は理解するが曖昧で分かりにくいと考える市民がいることなども考慮する必要がある。	本ビジョンは、ご指摘の内容を含めた地域コミュニティを取り巻く環境の変化や課題を踏まえて、その将来像を明らかにしようとするものです。 本ビジョンに基づく個々の取組を進める中で、ご指摘の課題を含めた課題の解決に取り組んでまいります。	1
3	高齢化や共働き世帯の増加など地域環境が変化する中、自治会が時代に対応できていない傾向がある。地域を次世代につなぐためにも、自治会の意識改革が必要。すぐに実現できる事ではないが、住みやすい、居心地がいい地域づくりを目指して、行政と自治会が協力し合い、よりよい北九州市になることを希望する。	「7. 地域コミュニティのリ・デザイン」に記載したように、これまでの地域コミュニティのあり方を時代の変化に応じて捉え直していくことが重要であると考えます。 「共助が働きやすいまち(Mutual city)」の実現に向けて、取組を進めてまいります。	1
4	人はそれぞれ多様な人生や仕事の経験を持っており、その知識や情報は将来の糧となり、人生が有意義なものとなり、得た情報は自分の宝物となる。地域や町内の専門家や高齢者、医療系など現役で仕事をしている方との交流を通	ご趣旨を踏まえ、「8.(6)経験を地域の力としてつなぐ「地域×“経験”」の中の「ケイケン・タカラ プロジェクト」に関する記述を見直し、地域の方が持つ経験を活かして、世代間交流やつながりを生み出す仕組みを目指していることを記載します。	2

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	じ、育児や教育、健康や介護の知識を深めることは、不安を軽減し将来の役に立つ。こうした交流は住民の孤立を防ぎ、楽しく明るい地域づくりにも効果があると考えます。		
5	本ビジョンの「利他が息づく」という理念に深く共感する。近年「他人に迷惑をかけてはならない」という意識の広がりや、つながりを希薄化させているが、人は必ず誰かの世話になる。それを迷惑ではなく「縁」や「ありがたい」と感じ合える関係こそが共助の土台であり、PTAはその文化を育む地域コミュニティの重要な担い手である。素案の「車座スタイル図」にPTAが明記されたことを心強く思う。PTAが「義務」ではなく「地域への入口」となるよう、行政による理解促進と明確な位置づけをさらに強調することを強く要望する。	ご意見を踏まえ、「7. 地域コミュニティのり・デザイン」の中で連携する主体の例にPTAを明記するとともに、「8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例」において、PTAが地域コミュニティの参加の入口の一つである旨の記述を追加します。	2
6	「取組／取り組み」「生かす／活かす」など、同じ意味の表記が文中で混在しているため、表記統一が必要である。	ご意見を踏まえ、統一すべき部分の記述を修正します。	2
7	コミュニティとは何か。例えば、地域包括支援センターが作る自立支援計画にコミュニティに基づく活動が位置付けられているのを見たことがない。あらゆる分野での身近なコミュニティ活動とその成果を示してほしい。	本ビジョンにおける「コミュニティ」や「地域コミュニティ」の定義や考え方については、「1. 人々の暮らしを支えるコミュニティ」に記載しています。また、これまでの地域コミュニティにおける活動や成果、今後想定される課題については、「2. 人情大都市・北九州市」「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」に記載しています。 また、本ビジョンは、地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、各分野でのコミュニティ活動に求める役割や内容、その成果については、その必要性に応じて、分野ごとの計画や個々の事業の中で明確にしていきたいと思います。	4

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
8	狭いつながりしかない人と幅広いつながりがある人では、求めるコミュニティに違いがあると思う。古く感じるコミュニティという概念に縛られることはないと思う。様々な人がいわゆるコミュニティ活動を知ること、どのように豊かになるかを提示してほしい。	年齢・家族構成・ライフステージ等に応じて、多様なコミュニティへの関わり方があることは、地域コミュニティビジョン検討会議においても議論を行いました(URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/158_00008.html)。その多様な関わり方を前提としたコミュニティの定義や、地域コミュニティのニーズ・役割について、「1. 人々の暮らしを支えるコミュニティ」に記載しています。	1
9	コミュニティを求めている人(あらゆる立場の人)のニーズを示してほしい。	地域コミュニティに関する様々な立場の方のご意見をいただくため、地域団体や関係者へ延べ140回以上ヒアリングを行うとともに、約6,000件のWEBアンケートを実施しております。その結果は「5.(2)地域団体等へのヒアリングから見えたこと、(3)アンケート調査から見えたこと」として記載しています。	1
10	多様性の視点が十分ではない。①多様な情報、②国際化する社会、③宗教、教育、性等に対する様々な考え方などが、コミュニティにどう関わるか、コミュニティが個人をどのように、より良い方向に向かわせるか、社会がコミュニティによってどう変わるかが分からない。	本ビジョンでは、「6.「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ」の中で、多様な世代や主体が柔軟に参加するコミュニティのあり方を「多元的(Plurality)」と表し、地域コミュニティの将来像に多様性の考え方を取り入れています。ご指摘の各要素が個々のコミュニティにどのような影響を及ぼすかは個々のケースによって異なりますが、ご指摘の視点は、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3
11	個人情報の保護についての視点が無いのは疑問である。昔は「うわさ」が差別につながることもあったが、助け合いを生む要因でもあった。現在は個人情報の保護が強く言われているが、コミュニティ内での情報漏洩や詐欺への悪用といった不安がある。つながりが広がるほど個人情報の拡散も増える。	本ビジョンは、地域コミュニティの将来像や方向性を示すものとしております。 また、地域活動における個人情報の管理は重要な課題と考えており、本市作成の「自治会運営の手引き」に明記するなど、引き続き周知・助言に努めてまいります。	4

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
12	共働き世帯の増加により、子育て世帯には時間的・体力的余裕が少ない現状がある中で、地域参加を広げるには「子どもが主役になれるコミュニティづくり」が重要。子育て世帯は、子どもの学びや体験につながる活動には積極的である。子どもが地域で楽しく活動することで保護者も地域と自然と接点を持つことができる。地域での体験や貢献の記憶は、将来のシビックプライドや「北九州に帰ってきたい」と思える土台になると考える。	ご指摘の「子ども」を中心とした地域づくりという視点は、これからの地域コミュニティの将来像において重要な視点と考えており、「6.「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ」の中でも、子どもたちが地域の伝統行事を楽しみながら成長していくことを、あるべき地域コミュニティの将来像の一例として記載しています。 また、ご指摘を踏まえ、「8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例」において、子どもを中心とした活動が地域コミュニティの参加の入口の一つである旨の記述を追加します。	2
13	コミュニティについて議論することはとても良いことだと思うが、文章が長く意見収集の姿勢に疑問を感じる(Web フォームの設置は評価する)。30代40代の子育て世代の意見が足りていないと思うので、概要を説明する動画を作成するなど、知ってもらう工夫をすべきである。これからの地域を担う世代が知らないところで勝手に決まったビジョンに価値はなく、市役所の工夫が足りない。	検討段階において、30代、40代の子育て世代を中心として市民アンケートを実施し、素案の作成段階でご意見を反映しております。 また、今回の意見公募にあたっては、内容を要約した「概要版」をホームページに掲載したほか、市政だより、市公式SNS、Instagram による発信など、多様な世代へのアプローチに努めてまいりました。 ご意見を踏まえ、引き続き、より身近で分かりやすい広報のあり方を検討してまいります。	3
14	地域コミュニティを「家族や公助(税金)だけでは守りきれない領域を、破綻しないコストで維持するための社会インフラ」と再定義し、持続可能な仕組みを取り入れることで、個人の幸福も両立させる取組と理解した。大前提として「行政からの依頼事務」を徹底的に精査・削減し、住民が本来の活動や自身の幸福につながる活動に注力できる環境を整えるべきである。	「8. (5) 負担を見直し、自主・自律を高める「地域 × “経営”」」に記載したように、地域コミュニティが本来重視すべき人と人とのつながりづくりや、安全・安心を支える活動に十分に力を注げるようにするため、より一層の負担軽減に向けて取り組んでまいります。	1
15	地域コミュニティへの期待と担うべき役割が広がる一方で「地域が担わなくてよいこと」の線引きが明確に示されていない。	ご指摘のように、人と人とのつながりや地域の安全・安心といった地域の重要な役割を維持しながら、今後、地域コミュニティに何が必要で、何を継続	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	協働が広がるほど役割は曖昧になり、現在の担い手が疲弊するリスクがある。 地域コミュニティは「温もり(受容・見守り・居場所)」に集中し、専門的な教育支援や部活動地域展開といった機能は学校・民間・行政が担うという役割の仕分けを明文化すべきである。 「多様な主体が関わる」という方向性自体は正しいと感じている。 新たな担い手を増やす設計と既存の担い手の負担軽減を両立し、役割の再定義を制度として明示することが、本ビジョンを絵に描いた餅にしないための最重要の一手と考える。	するのかを自主・自律的に見直すことのできる環境づくりが重要と考えており、その趣旨を「7.(3)より一層自律的、能動的な運営へ」に記載しています。 そのため、まずは地域団体から負担が大きいとの声が大きい行政からの依頼事務の見直しに着手するとともに、地域活動への新たな担い手の確保に向けた取組を進めてまいります。	
16	本計画を市民に広め、見てもらいたいのであれば、もう少し画像や分かりやすい説明をもっと増やすべきである。	今回の意見公募にあたり、内容を要約した「概要版」をホームページに掲載しました。 また、今後のビジョンの周知や活用にあたっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。	1
17	暮らしが厳しい中、人のことまで構ってられないような風潮もある。 やりたいことをやって楽しむ、それが出来るのが市民センターである。 市民センターに若い人がいないのは、行きたいと思うようなことがないから。全世代が楽しめるように。宣伝費よりも、誰が稼げる街なのかを考え、地元にお金が落ちる仕組みにすべき。 今いる市民が笑顔で暮らしやすいことが1番なのではないか。	地域コミュニティの拠点である市民センターのさらなる活用は今後も重要と考えており、いただいたご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。	3
18	市民センターをもっと活用すべき。 多世代交流において無償ボランティアだけでなく、わずかでも有償ボランティアを導入してはどうか。		3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
19	目指す将来像については理解できるが、「利他が息づく」という表現は価値観を強制されているような印象を受け、違和感がある。 利他の精神がある人しか地域活動ができない、と誤解させる恐れがある。 地域活動は誰かのために「あるべき」という意識よりも、「自分自身の楽しさ」や「つながりたい気持ち」から自然に生まれる方が長続きしやすいのではないかな。	本ビジョンでは、「7. 地域コミュニティのり・デザイン」に記載したように、「楽しさ」「興味」「やりがい」を地域活動への参加のきっかけとして重視しています。地域における自然な「誰かのため」「みんなのため」の行動が生まれるあたたかな関係性を「利他が息づく」と表現しています。 今後、本ビジョンの周知・広報を行っていく上で、ご意見の趣旨を踏まえ、丁寧に説明を行ってまいります。	1
20	役員不足や高齢化、脱会世帯の増加により、残された加入世帯に過度な負担が集中している。 市政だよりの配布や回覧板管理、各種募金の取りまとめなど、多岐にわたる無償ボランティア活動への依存は既に限界が来ている。 自治会本来の目的である「暮らしやすいまちづくり」に向け活動を整理・精選し、行政側も事務の見直しや負担軽減に踏み込むべきである。 現在の仕組みを続ければ、自治会の維持が困難になる地域がさらに増えていくことを強く危惧している。	ご指摘のように、人と人とのつながりや地域の安全・安心といった地域の重要な役割を維持しながら、今後何が必要で、何を継続するのかを自主・自律的に見直すことのできる環境づくりが重要と考えており、その趣旨を「7. (3) より一層自律的、能動的な運営へ」に記載しています。 また、「8. (5) 負担を見直し、自主・自律を高める「地域 × “経営”」」に記載したように、行政からの依頼事務の削減を含めた一層の負担軽減に向けて取り組んでまいります。	1
21	高齢化と担い手不足により特定の役員が長年複数の役割をこなし、他の住人がお客さん状態になっている。 根本的な問題は、高齢役員の「今までどおり」から離れられない考え方であり、若い役員が意見しづらい要因となっている。 意識改革を促すため、行政が高齢役員を対象に地域リーダー向け講座を実施し、未来へ向けた自治会運営がなされることを希望する。	「8. (3) 多様な主体と協働する「地域 × “企業・大学・NPO…”」」に記載したように、地域の多様な関係者の調整や合意形成を後押しするため、地域のリーダー役への研修等に取り組むこととしております。いただいたご意見は、事業の参考とさせていただきます。	3
22	市民センター等の施設は地域コミュニティの拠点でありながら土曜夜間や日曜が閉館している。市民ニーズにあった公共施設の運営が必須	地域コミュニティの拠点である市民センターのさらなる活用は今後も重要と考えており、いただいたご意見は今後の事業の参考とさせていただきます	3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	と考える。	す。	
23	ビジョン策定とその実現に向けた取組を市がしっかり掲げたことを大変評価する。 また、北九州市が「課題先進都市」に挑むことに希望を感じる。また、多様な視点からのアプローチが示されていることにも賛同する。具体的に行動していく過程に市民が「自分ごと精神」で楽しく関わることを期待する。 地域の声や活動の見える化の事例として市民センターの Instagram は参考になる。 市民センターが地域コーディネートの核となる必要性を感じており、そのためにも市民センター職員の構成の見直しが必要。まちづくりのプロ集団として、130 館の設備資産を活かし、「課題先進都市」に挑めると確信している。		3
24	「地域の声」の見える化には、個人が自由に意見を投稿でき、全体の状況がタイムリーに見える「ブロードリスニング」の活用が有効である。定期的な配信等を通じて傾向や発見を共有し、「自分ごと」への意識転換を促すべきである。 「地域の活動」の見える化は、市民センターが中心を担い、専属担当による地域取材や SNS 発信を行う「地域メディア」として日本初の取組を行うことを提案する。 また、プライバシー配慮のため AI によるオート顔ぼかし機能を開発し、投稿作業の効率化と両立させることが必要である。	「8.(1) みんなの声を活かす「地域 × “ブロードリスニング”」に記載したように、地域の声の全体の傾向の把握や現状の“見える化”に取り組んでまいります。 また、地域活動の情報発信やAI機能開発等については、今後の事業の参考とさせていただきます。	3
25	130 館ある市民センターがビジョンを実践する場として機能し、協働の中核拠点となることが最適である。 貸館等の業務に加え、コミュニティデザイン等の知識を取り入れた「公的地域コンサル」の役割を	地域コミュニティの拠点である市民センターのさらなる活用と人材育成は今後も重要と考えており、いただいたご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。	3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	担うべきである。 そのために、生涯学習推進コーディネーターと連携し「地域コミュニティデザイナー」という役割を確立するなどの人材確保と教育が必要である。 130 館を大きな地域資源として活かすことでコミュニティ分野の先進都市として発展できると考える。		
26	デジタル化が必要な(可能な)活動や情報として、需要と供給を適切にマッチングする「地域お助け隊」の登録媒体、地域情報の伝達・共有を担う「電子回覧板」、集金・決済業務を効率化する電子決済が挙げられる。 また、小学校区単位で防犯灯やゴミステーションの管理状況を共有するシステムや、活動実績に応じポイントを付与する電子版「地域ボランティア活動手帳」、活動状況や支援ニーズを地図上に表示する「地域ボランティア活動マップ」の運用が考えられる。 これらを通じて地域活動の見える化を図り、具体的な協力や行動に繋げるべきである。	「8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例(2) デジタルでつながる「地域 × “デジタル”」」に記載したように、地域情報の発信、参加の呼びかけ、連絡調整などにおいて、デジタル技術を積極的に活用していくことが重要と考えており、デジタル技術を活用した仕組みづくりを検討してまいります。 ご意見は、今後の事業の参考とさせていただきます。	3
27	ビジョンでは「地域課題に対し、組織横断的に対応できる体制を整える」としていますが、どの部署が、いつまでに、何を目標に進めるのかが示されておらず、理念的記述に留まっている。担当部署や工程表、達成目標、市民参加型の検証制度を明記すべきである。	本ビジョンは、地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、これに基づく個々の事業や取組を行う上で、各部署が工程や目標を整理しながら進めてまいります。また、組織横断的な検討・実施が必要なものについては、本年6月に設置した「コミュニティアクション本部」を活用して進めてまいります。市民参加型の検証制度につきましては、今後の事業の参考とさせていただきます。	3

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
28	町内会の負担軽減は市の都合による効率化ではなく、市民生活や地域活動の持続可能性につながる視点が必要。実際に負担軽減に成功している地域もあるが、十分共有されていない。	「8.(5) 負担を見直し、自主・自律を高める「地域 × “経営”」」に記載したように、地域コミュニティが本来重視すべき人と人とのつながりづくりや、安全・安心を支える活動に十分に力を注げるようにするため、より一層の負担軽減に向けて取り組んでまいります。	1
29	ごみステーションについて、対策制度があっても設置場所がなく活用できない地域がある。公園や道路余剰地など公共空間の柔軟な活用を含めた具体策をビジョンに位置づけるべきである。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、ご意見は、関係部局にも共有させていただきます。	4
30	全体的に文章が多く、取組のイメージが湧きにくいいため、要所に概念図等を入れてほしい。	今回の意見公募にあたり、内容を要約し、図表等で表現した「概要版」をホームページに掲載しました。また、今後のビジョンの周知や活用にあたっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。	3
31	「15 分都市」の考え方には地域間格差や生活コスト上昇、移動制限、情報格差による高齢者の孤立といった副作用の懸念がある。海外の人の受け入れが進む中、幼稚園等の現場に対応を任せきりにすることにならないか不安を感じる。が、本素案では海外の人への具体的な対応が見えてこない。	15 分都市等の海外事例は、本ビジョンが目指す未来の姿として、身近な範囲で暮らしの用事や困りごとが解決する、暮らしやすい地域のモデルとして記載したものであり、ご指摘のような側面も踏まえてビジョンの実現に取り組んでまいります。 また、「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」に記載したように、外国人市民の増加に伴う地域での共生や情報共有は、地域コミュニティにおける課題の一つとしてとらえており、それらの課題に対応するための地域コミュニティの将来像を示すものとして、本ビジョンを整理しております。 具体的な対応については、関係部局にもご意見を共有し、今後の事業等の参考とさせていただきます。	3
32	素案策定において、多様な立場の人が参加する「北九州市地域コミュニティビジョン検討会議」での議論や市民アンケート結果など、貴重な意	「9. 課題を価値に変えるフロントランナーへ」に記載したように、今後の地域コミュニティのあり方として、自治会や町内会等といった地域団体や企業、	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	見が報告されている。 しかし、地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方が示され、様々な意見が紹介されているものの、今後どのような方針ですすめていくのか、実行にあたってのリーダーシップを誰が担うのか、曖昧である。 複雑な社会・経済情勢のもとで、あるべき地域コミュニティを形成するには行政の関わりが決定的であり、行政として責任を持って進めていくことを明確に打ち出すべきである。	NPO、PTA、若い世代など多様な個人や組織が主体的に関わり、行動していくことが重要と考えています。 本ビジョンにはそうした将来像を示しながら、ビジョンの策定作業や各プロジェクトを行政がリーダーシップを発揮して取り組んでいくことで、将来像の実現を進めてまいります。	
33	デジタル化に反対である。必要がないのに電気を作りすぎており、多くの人々が精神的・身体的に病んでいる。コミュニティは衣食住の充足が先決である。ポイ捨てやゴミに対する警戒心が薄れている現状を危惧する。不必要な製品や商品に悩まされており、詐欺や迷惑行為が横行している現状を改善すべきである。	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5
34	PTAは「子ども」というハブを通じて保護者と地域を結ぶ「参加しやすい入口」そのものである。素案において、PTAや子ども会などの「子どもハブ型組織」を、地域コミュニティへの参加入口として明示的に位置づけるべきである。	ご指摘を踏まえ、「6.「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ」の記述を見直すとともに、「8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例」において、子どもを中心とした活動が地域コミュニティの参加の重要なきっかけの1つである旨の記述を追加します。	2
35	PTAはボランティア精神あふれる保護者を発掘し、地域活動を支える人材として送り出す役割を担っている。PTAを単なる協力団体ではなく、地域の「担い手育成機関」として評価する視点を盛り込むべきである。		2
36	PTA活動での経験(楽しさや充実感)がその後の地域との関わり方を大きく変えるため、PTA活動の質の向上が将来の地域参加人材の育成に直結することを、素案の施策の方向性に反映させるべきである。		2

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
37	地域活動は単なる「課題対応」ではなく、まちの魅力を高め、人を惹きつける「ふるさとづくり」であるという積極的な意義をビジョンの中で明確に示していただきたい。将来像「共助が働きやすいまち(Mutual city)」の説明において、地域活動が「ふるさと感」の醸成に繋がり、将来の定住・回帰に結びつくという長期的視点を加えるべきである。	ご指摘を踏まえ、「6.「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ」において、子どもたちが地域の活動への参加を通じて、自分のまちへの愛着と誇りを育むという視点を追加しました。	2
38	大人だけの議論から「子どもを主体に考える視点」への転換が活動を深化させる鍵である。子育て世代アンケートの声を施策に活かす際、「子どもを中心とした参加のきっかけ」という観点を明示的に組み込むべきである。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の事業の参考とさせていただきます。	3
39	PTA や地域団体が独自に実施している感謝を伝える取組を収集・共有し、全市的な「地域貢献感謝の文化」の醸成につなげること。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の事業の参考とさせていただきます。	3
40	PTA 等が先行導入しているデジタル事例をモデルとして共有し、地域コミュニティ全体のデジタル化モデルとして参照・共有する仕組みを設けるべきである。	「8.(2) デジタルでつながる「地域 × “デジタル”」」に記載したように、地域情報の発信、参加の呼びかけ、連絡調整などにおいて、デジタル技術を積極的に活用していくことが重要と考えており、その仕組みづくりを検討してまいります。 ご意見は、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3
41	「良いまち」を守り継続することは子どもたちへの贈り物であり、次世代の担い手育成に直結する。子どもを単なる「参加者」とするだけでなく、子どもの段階から行事の「担い手・企画者」として主体的に関わる機会を設ける施策を検討すべきである。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3
42	従来の慣習に縛られた煩雑な事務のデジタル化は、担い手が本来の活動に専念できる環境を整える。このデジタル化による事務削減を、素	「8.(5)経験を地域の力としてつなぐ「地域×“経験”」」において、行政からの依頼事務の見直しと合わせて、デジタル技術を活用した負担軽減の方向	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	案 p.39 の「行政からの依頼事務の見直し」と合わせて推進し、地域団体・PTA 双方の負担軽減を図るべきである。	性について記載しています。	
43	北九州市が掲げる「地域共助」の理念に共感する。 若い世代の参画や DX 化、地域活動の負担軽減などの方向性は非常に重要と感じた。特に、LINE 等を活用した迅速な情報共有や、現代のライフスタイルに合わせた「無理なく参加できる仕組みづくり」が今後ますます必要になると考える。	「7. 地域コミュニティのリ・デザイン」に記載したように、若い世代を含めた誰もが参画しやすい環境づくりや地域活動の負担軽減を進めてまいります。LINEの活用等のご意見は、関係部局とも共有し、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3
44	地域活動は「役員」や「会議」といった形式だけでなく、散歩や地域猫活動、ごみ出し等の日常生活の延長(日常の動線)の中で生まれるゆるやかなつながりこそが大切。今後は、市民センター等を中心とした活動に加え、「日常の動線の中で地域と関われる仕組み」も大切になるのではないかと考える。	ご指摘のように、日常生活の中で自然につながりが生まれることは大切であり、「6. 「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ」の中で、ご近所で自然に挨拶を交わしたり、顔見知りが生まれたりするといった姿を目指すまちの将来像として記載しています。これに基づいて、誰もが参画しやすい環境づくりに取り組んでまいります。	1
45	地域活動を単なる「負担」や「義務」にしない工夫が必要。清掃後のお茶会や、花植え後のしゃぼん玉遊び、季節の風景の共有など、活動に「小さな楽しさや交流」を組み合わせることで、多世代が参加しやすくなると考える。	「7. (1)「楽しさ」「興味」「やりがい」の重視」に記載したように、「楽しそう」「少し参加してみたい」といった気持ちから関わりをスタートすること、そうした視点で地域活動をデザインすることが大切と考えており、いただいたご意見は今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3
46	地域活動への参加ハードルを下げるため、 ・朝のあいさつだけ ・危険箇所の共有だけ ・短時間の見守りだけ ・写真を一枚投稿するだけ など、「5 分だけ参加できる地域参加」を増やすことも必要。 LINE 等で地域の小さな気づき(街灯切れ等)を気軽に共有できる場が有効である。		3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
47	「効率化」と「自然に生まれるつながり」の両立が必要である。大学や企業が近くでない地域の格差への配慮や、移動困難等により「声を上げにくい方々」の視点も、これからの地域コミュニティでは重要である。	ご指摘の点については、地域特性の違いを踏まえた課題解決モデルを作る「次の10年地域づくり先行モデルプロジェクト」や、「ブロードリスニング」の手法等を活用して地域の多様な思いを見える化していく「(仮称)地域カルテ」の作成等、施策や事業を進めていく上での参考とさせていただきます。	3
48	外国人住民として北九州市の温かさに感謝しているが、地域とのつながりや日本人との交流にはまだ壁を感じる。誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、以下の取組があるとよいと思う。 ・外国人と日本人が気軽に交流できる場所づくり ・外国人住民が主体的に参加できる地域活動やNPO 活動への支援 ・子ども同士や家族同士が交流できる国際交流イベントの開催 ・地域イベントや行政情報の多言語発信の強化 ・外国人向けの生活相談や就職支援、情報交換ネットワークの整備 ・デジタル技術(DX)を活用した、わかりやすい情報共有や手続き支援 特に、子どもを通じた交流は、大人同士の自然なつながりにもつながり、地域全体を温かくする力がある。 外国人住民の中には「地域に参加したい」「役に立ちたい」と考えている人が多いが、言葉や情報の壁によって孤立してしまうケースも少なくない。 外国人住民自身が企画や運営に関わることができる仕組みや、多文化交流を支える団体への支援を拡充することが重要である。	「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」に記載したように、外国人市民の増加に伴う地域での共生や情報共有は、地域コミュニティにおける課題の一つとしてとらえており、それを踏まえた地域コミュニティの将来像を示すものとして、本ビジョンを整理しております。 いただいた個々のご提案やご意見については、関係部局とも共有し、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	そうした取組を通じて、北九州市はさらに魅力的で国際的な街になると思う。 私自身も文化交流活動を続けており、将来は日本人と共に地域社会へ貢献できる団体づくりを目指している。 北九州市が、国籍や言語を超えて誰もが安心して参加できる、温かく開かれた地域社会になることを期待する。		
49	ビジョンの全体像がわかる図(ポンチ絵)は早い段階から公表して欲しかった。	全体像を示す図を作成し、ホームページに掲載いたしました。引き続き、今後の周知や活用にあたっては、見やすさや読みやすさに配慮してまいります。	1
50	パブリックコメントの際、検討会議の構成員情報やアンケートのさらなる詳細な調査結果などを、資料編としてホームページに添付・公表すべきであった。	検討会議の資料や会議録、検討結果については、市ホームページ(URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/158_00008.html)において全回分を公開しております。	1
51	地域コミュニティは多省庁の事業に関係しているが、本ビジョンは総務省や自治会に偏っている。国の縦割りを地方から壊し、越境する姿勢が必要である。	本ビジョンの策定にあたっては、幅広い意見をいただくため、「5. 地域コミュニティのあり方に対する意見」に記載したように、約 6,000 件のアンケートを行うとともに、社会福祉協議会等の福祉団体を含めた関係者のヒアリングを 140 回以上実施しております。 また、ビジョンの実施体制として、組織横断的な「コミュニティアクション本部」を立ち上げて、市一体となって進めてまいります。	1
52	地域コミュニティ存続の大きな意義は福祉と防災・災害対応にある。高齢者の見守り、老老介護、ひとり親、ヤングケアラー、ひきこもりなど多岐にわたる福祉課題を丁寧に説明することで地域コミュニティに対しての市民の理解と協力が得られるため、地域コミュニティが今後も必	ご指摘の趣旨を含め、「1. 人々の暮らしを支えるコミュニティ」において地域コミュニティの意義について記載しています。本ビジョン策定後も、この意義を市民の皆様へより分かりやすく発信しながら、ご理解いただくよう努めてまいります。	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	要不可欠であることを、きちんと説明すべきである。		
53	既に市の計画に明記されている「地域共生社会」という目標に対し、本検討会議の構成員や会議資料に福祉の視点が不足しており、現状より後退している印象を受ける。	本ビジョンに示す「共助が働きやすいまち(Mutual city)」は、近年の社会情勢の変化等を踏まえて、これからの社会において、自助や公助とともに、地域コミュニティ(共助)の役割が極めて重要になるとの認識に基づいたものです。中長期的な視点から福祉を含めた地域課題への対応のための骨太の方針として、求められる地域コミュニティの姿を表現したものです。 また、策定にあたっては、社会福祉協議会を含めた地域団体や関係者のヒアリングを行っております。	1
54	自治会、社協、まち協、市民センターなど、多くの団体による類似・重複事業をどう整理し、スリム化していくのか、誰が今後どう地域コミュニティを担っていくのかの分析、検討、今後の方向性を明確にすべきである。	ご意見の趣旨を実現していくためにも、地域コミュニティが自主・自律的に活動を見直すことのできる環境づくりが重要と考えており、その趣旨を「7.(3)より一層自律的、能動的な運営へ」に記載しています。	1
55	国や本市が推進している「地域共生社会」の実現に向けた取組について、本ビジョンの中でも言及すべきである。	「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」の図7:近年の地域コミュニティに関する主な国の見解に、「地域共生社会」に関する内容を追加しました。	2
56	次期地域福祉計画が、本ビジョンで定める将来像を踏まえるために待機している現状に対し、地域コミュニティ部局側が保健福祉部局の施策と協働しようという姿勢が読み取れない。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものです。 また、「北九州市地域福祉計画策定懇話会」や「北九州市社会福祉審議会」においても、地域コミュニティビジョンの策定状況について、適宜報告を行うなど情報を共有しながら意見交換を行っており、福祉分野の計画等とも連携を行ってまいります。	1
57	保健福祉部局から地域コミュニティ部局への働きかけが不十分であり、保健福祉の分野において、独自の多くの施策が、「まちづくり」、「地域づくり」という題目で一人歩きしている。		1
58	行政の縦割りを排し、大きな視点で共通の目標に向かうことが必要だと考える。そのためには、地域団体の重複業務の整理や役割分担、他領域との協働なども必要であり、今後の方向性	「7. 地域コミュニティのり・デザイン」において、地域における多様な主体の連携を進めていく方向性を記載しています。	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	を、ビジョンの中に明確に書き込んでおくことが必要である。		
59	「リ・デザイン」「プロトタイプ」等の外来語が多く、全世代で理解が困難である。中高生や年長者にも分かりやすいよう、日本語での記述や注釈、説明を加えるべきである。	ご意見を踏まえ、ビジョン本文で説明や定義を行っていない用語について、注釈を追加いたします。	2
60	字が小さく行間が詰まっているため、年長者には読み難い。	今後のビジョンの周知や活用にあたっては、見やすさや読みやすさに配慮してまいります。	3
61	自治会、町内会への不加入について、憲法第21条(結社の自由)との考え方を入れること。不加入の自由、権利を明記してほしい。	明記はしていませんが、例えば「7. (1)「楽しさ」「興味」「やりがい」の重視」において、地域コミュニティへの参加を誰もが無理なく参加しやすくしていくことを重要な方向性としているように、自治会・町内会への加入が任意であることをビジョンの前提として記述をしております。	1
62	現市民センターの館数、職員数、給与、予算、利用人数、開館状況(時間・休館日)等の詳細な現状データを記述すべきである。あわせて、それらの変更内容や時期、理由についても明記すること。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、関連するデータについては、「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」に整理しております。 なお、ご指摘の市民センターに関するデータ等は、その一部をすでにホームページ等で公開しております。また、個々の事業や取組の中で、必要に応じて記載してまいります。	4
63	自治会・町内会活動の限界や行政との境界、協働の限界、「第二市役所(区役所)化」の危険性や、市・区役所の下請け、小間使いといったことについて考察して記入してほしい。	「7. 地域コミュニティのリ・デザイン」において、多様な主体との協働やより自律的・能動的な運営の促進について記載しています。	1
64	自治会、住民団体、組織、性格、規模、構成員数、活動状況等の一覧表を記載してほしい。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、個々の団体の組織や性格等を掲載するものではありません。	4
65	「地域自治組織のあり方に関する研究会報告書」(平成29年7月)の法人格や任意団体に関する記述では、エリアマネジメント団体は団体	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、ご指摘の趣旨については個々の事業や取組の中で、必要に応じて周知や注意喚起	4

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	としての契約等ができないことや、代表者・構成員に無限責任が及ぶおそれがあるなどの課題を指摘している。これらを踏まえ、本ビジョンの中に「自治会、町内会の法的責任の問題点」という章を設けて記述すべきである。	をしてまいります。	
66	自治会・地域活動と個人情報保護法の関係について、注意点、責任、住民への周知、役員の責任等を具体的に記述すべきである。自治会活動に個人情報は必須である。素案 27 ページの図 9 にある空家情報は個人情報保護法違反や犯罪悪用の恐れがあった。また、自治会には法的な守秘義務はない。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、個人情報の管理については、本市作成の「自治会運営の手引き」に明記しており、引き続きご指摘の趣旨を踏まえ、周知・注意喚起をしてまいります。	4
67	自治会、町内会等の活動。運営に関して、個人情報保護法上、どのように取り扱えば良いのか。法説明を付して、注意点と指針、基準等を示して記述してほしい。		4
68	図表の文字が非常に小さく読みにくいので、図そのものを大きくするか、図内の文字を大きくしてほしい。	今後のビジョンの周知や活用にあたっては、見やすさや読みやすさに配慮してまいります。	3
69	検討会議の第 1 回から第 5 回までの資料や結果を添付すること。	検討会議の資料や会議録、検討結果については、既に市ホームページにおいて全回分を公開しております。(URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/158_00008.html) また、ビジョンの完成版にも、検討会議の資料等を添付する予定です。	1
70	「北九州市自治基本条例」から詳しく説明してほしい。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、その策定にあたっては、「北九州	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
71	令和 6 年北九州市自治基本条例に基づく市政運営の評価検討委員会の答申(令和 6 年 11 月)との関係、反映等を記述してほしい。	市自治基本条例」の理念を踏まえ、市民と行政がそれぞれの役割を果たしながら協働してまちづくりを進めるという考え方を基本としております。	1
72	策定部署を明記すべき。	ビジョンの完成版においては、検討会議の構成員名簿や事務局を担った所管部署を明記します。	3
73	「共助が働きやすいまち」を目指す将来像として掲げ、「楽しさや興味からやりがい」、「地域課題の解決に多様な主体の力を結集」、「地域活動に必要な資源が循環する仕組み」この地域コミュニティの将来像に必要な3つのポイントがとても素晴らしいと感じた。大学や企業、NPO などの地域外の力を積極的に取り込むことは、本市の大きな強みになると期待している。	ビジョンへのご賛同、ありがとうございます。「7. 地域コミュニティのリ・デザイン」に記載した 3 つの視点から、取組を進めてまいります。	1
74	活動を知らないという意見が若者に多いため、今後、ビジョンに示された考え方が各地域の具体的な取組として見えるよう情報発信し、参加しやすくすべきである。	ビジョン策定後、理解や周知を進めていくことは重要と考えており、いただいたご意見は今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3
75	・仕事や家事育児などで忙しい層に向け、子ども連れで参加できる会議や行事の実施や得意な SNS での行事周知の手伝いなど、空き時間や個人の強みを活かして参加できる仕組みをつくる。 ・ボランティアのための研修費用の充実 ・小学校や中学校の授業の科目として地域のことについて学ぶ ・座学だけでなく、町内会の活動におためしで見学や参加 など、市民センターをまちづくり活動の拠点として、学びと活動による関係づくりに取り組んではどうか。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
76	市民にとっての価値を明確化すべきである。本ビジョンを実現することで、市民や現役の地域活動組織(自治会など)にどのような具体的メリット(負担軽減や支援拡充など)があるのか。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、ビジョンの実現によって生まれるまちの姿を「6.「共助が働きやすいまち(Mutual city)」へ」や「9. 課題を価値に変えるフロントランナーへ」に記載しています。また、具体的な変化の方向性について「8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例」に記載しています。	1
77	施策実践・実現のための必要な条件や予算・人員の裏付けを明確にすべきである。例えば、掲げられた7つの「地域×“〇〇”」を進めるにあたり、現場(行政、地域関係者・組織)が受け入れるための条件(必要な財政支援、人的サポート、IT環境の整備など)の裏付けが示されていない。担い手不足や高齢化に苦しむ現場の現実在即した、実現可能性のある具体策を提示してほしい。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、個々の事業や施策に関する予算や要件等については、それぞれの取組を進める中で明確にしていきたいと思います。	4
78	実施責任の所在の明確化をビジョンに組み込むべきである。行政施策として定期的検証と見直しのサイクルを組み込むことは当然であり、本ビジョンが頓挫したり地域コミュニティの機能低下を招いたりした場合の責任の所在が不明確である。市長をはじめとする行政側の責任の所在と、施策の成否を客観的に評価する基準(KPI)を明記すべきである。	地域コミュニティは、単一の組織ではなく、行政や地域団体、企業、NPO等多様な主体が、地域を構成する一員として、一体となって取り組んでいくことが重要と考えています。 また、各地域において抱える課題や特性が多様であることから、ビジョンにおいては、一律の基準(KPI)の設定に馴染まないと考えていますが、個々の事業や取組を進める上では、PDCAサイクルを意識して進めてまいります。	4
79	素案が雰囲気的なスローガンに終始しており、現場が動けず「計画倒れ」「掛け声倒れ」に終わる懸念がある。第1回資料にあった第6回検討会議(報告書のまとめ)が取りやめられた理由を明らかにし、構成員諸氏のご苦勞に少しでも報いるべきである。行政側の進行シナリオ優先ではなく、改めて検討の場を設け、現場の声を	本ビジョンの策定にあたっては、全5回にわたる検討会議を通じ、構成員の皆様にご議論をいただきました。それらの議論を、構成員の皆さまの同意を得た上で、素案に反映し、取りまとめております(検討会議録URL: https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/158_00008.html)。	5

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	反映した実効性のある計画へと修正してほしい。	なお、検討の経過につきましては、毎回の会議録要旨を作成・公開しております。	
80	策定手続きの正当性について。検討会議では異論など闊達な議論が行われたが、予定されていた報告書が策定されず、合意形成が不十分なまま事務局主導で素案が作成された懸念がある。委員の意見や懸念が本案にどう反映されたかの経緯や理由を明確に開示し、再度検討会議の意見を集約し直すべきである。 素案 2 頁目のピラミッド図は、事務局から提示されたものの検討会議ではほとんど議論されておらず誤解を招くため削除すべきである。		5
81	ビジョン理念の中に北九州市自治基本条例の理念も行政施策の動機として織り込むべきである。北九州市自治基本条例との関係性についての記述の追加、および住民自治の理念と矛盾する行政主導のビジョンづくりを見直すべきである。今回の策定プロセスは行政主導・トップダウンであり、住民・地域団体主体というビジョンの理念とそぐわない。 行政の都合に合わせた『型通り』の進め方を見直し、真に住民の声を反映したビジョンに修正することを求める。	本ビジョンの策定にあたっては、「北九州市自治基本条例」の理念を踏まえ、市民と行政がそれぞれの役割を果たしながら協働してまちづくりを進めるという考え方を基本としております。 また、ビジョン検討会議の議論に加えて、「5. 地域コミュニティのあり方に対する意見」に記載したように、約 6,000 件のアンケートを行うとともに、社会福祉協議会等の福祉団体を含めた関係者のヒアリングを 140 回以上実施し、それを踏まえてビジョンの案を作成しております。	5
82	「将来像」なのか「未来像」なのか、あるいは「目指す将来像」なのか、言葉を統一したほうが良い。	ご意見を踏まえ、統一すべき部分の記述を修正します。	2
83	大作で核心までの距離が長いと、内容の傾向ごとに大見出しをつけて分類し、起承転結を明確にしてはどうか。	今後のビジョンの周知や活用にあたっては、見やすさや読みやすさに配慮してまいります。	3
84	一文が長すぎて分かりにくい箇所や文章のねじれがあるため、修正すべき。	ご意見を踏まえ、表現を一部修正します。	2

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
85	漢字表記が混在しているため、正確な表記に修正したほうがよい。	ご意見を踏まえ、統一すべき部分の記述を修正します。	2
86	ビジョンを踏まえて地域のビジョンを検討した。デジタルの活用、多世代参加につながる交流・防災・健康づくりの取組を地域で行いたい。	ビジョンに沿って取り組んでいただき、ありがとうございます。 ビジョンに基づく個々のプロジェクトや事業については、その詳細を決定次第、順次お知らせしてまいります。	1
87	当地域は、高齢者のボランティア精神が高い一方で、この流れを途切れることなく次世代へつないでいけるのかが大きな課題であった。そこで、2024年有志により、近隣の学生たちと地域の大人が協働し、地域活動や伝統行事の活性化を図りつつ、持続可能なまちづくりを目指していくプロジェクトを立ち上げた。 まだまだ当地域も試行錯誤を続けている。今年度からは近隣の企業とも協力する体制を模索しているところである。地域ごとにコミュニティの在り方は異なると思うが、今後は、コミュニティ活動のスリム化と多様化を念頭に置きながら、それぞれの地域にあったコミュニティの在り方を模索していかなければならないと考えている。	地域活動へのご尽力、ありがとうございます。 ご意見にある活動は、本ビジョンが示す「多様な主体との連携の促進」等に沿った取組と考えております。	1
88	地域活動は原則でボランティアであるのに対し、活動費を稼ぐことで賄うことは難しい。そのため行政の支援は必要で補助金はチェックする仕組みをしっかりと設ける。マンションが増え、現代のライフスタイルの変化により、地縁・血縁の関係で成り立っていた地域社会が大きく変わっている。今後は、団体が役割分担して、緩やかなつながりのある地域社会を目指すべき。	「7. (3)より一層自律的、能動的な運営へ」に記載したように、行政からの補助や支援に加えて、地域の資源を活かした「稼ぐ」仕組みは地域の可能性を高めることにつながるため、可能な範囲で「稼ぐ」ことを視野に入れた活動も重要と考えています。 また、ご指摘の通り、市からの補助や支援について、適正に使用されているか、その確認に引き続き取り組んでまいります。 また、ご指摘のとおり、地域における多様な主体（個人・組織・団体）がつながり、連携し、強みを活か	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
		しながら役割を分担して協働していくことが重要であると考え、その趣旨を「7. (2)多様な主体との協働の促進」に記載しています。	

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
≪1. 人々の暮らしを支えるコミュニティ≫			
89	地域の人同士で仲良くなれば、困ったときに助け合うことができ、一人暮らしの方も孤独にならずに過ごせると思う。また、持病などを把握し合えば災害時の救助や処置にも役立つため、お互いを知る良い機会になりとてもよいと思う。	本ビジョンでは「1. 人々の暮らしを支えるコミュニティ」に記載したように、地域コミュニティの基礎的な役割として「他者とのつながり」を想定しており、それを促進するための取組を進めてまいります。	1

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
≪2. 人情大都市・北九州市≫			
意見なし			

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
≪3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ≫			
90	自治会役員の人数、年齢構成、男女比、および在任期間を記述すべきである。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、関連するデータについては、「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」に整理しております。 なお、ご指摘の自治会や町内会の数や構成単位、活動内容等の一部のデータについては、区自治総連合会のホームページ等に掲載されています。また、役員構成等に関しては、任意団体の運営に関するものであることから、個々の事業や取組の中で取扱いを検討してまいります。	4
91	自治会や町内会等の地域団体の数、種別、構成単位、人数、活動内容等について、市全体および区ごとの現状を記述すべきである。現状が不明確である。		4
92	外国人住民との共生について、自治会活動における具体的な指針を記述すべきである。	「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」に記載したように、外国人市民の増加に伴う地域での共生や情報共有は、地域コミュニティにおける課題の一つとしてとらえており、それらの課題に対応するための地域コミュニティの将来像を示すものとして、本ビジョンを整理しております。 こうした方向性に基づく具体的な指針等については、今後ビジョンを踏まえた個々の取組の中で検討してまいります。	4
93	図7に「地域自治組織のあり方に関する研究会報告書(平成29年7月総務省)」を加えるべきである。構成員の「無限責任」に言及している点は、非常に重要である。	近年発出された主な報告書を図7の対象としたことから、ご指摘の報告書について掲載はしていませんが、その趣旨は地域団体の運営において重要な事項と考えており、今後の事業や取組等において参考とさせていただきます。	3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
≪4. 課題先進都市・北九州市が地域コミュニティの再生と改革に挑む≫			
意見なし			

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
≪5. 地域コミュニティのあり方に対する意見≫			
94	行政から地域団体への依頼業務は令和5年度時点で127項目あり、平成29年度比で約6割まで削減されたところだが、現場の負担感は依然として高い。 これは削減された多くが軽微な業務で、重い業務が残っている可能性を示している。 今後は「削減数」を成果指標とするのをやめ、「地域が本来の役割に注力できる時間が増えたか」を指標とすべきである。業務を「数」ではなく「質と重さ」で整理する視点を持つことを求める。	「8.(5) 負担を見直し、自主・自律を高める「地域×“経営”」」に記載したように、地域コミュニティが本来重視すべき人と人とのつながりづくりや、安全・安心を支える活動に十分に力を注げるようにするため、より一層の負担軽減に向けて取り組んでまいります。	1
95	自治会・町内会がその地域の全住民を構成員とするものではないこと、また、自治会長等の合意了承が全住民の意思を代表するものではないことを記述すべきである。	自治会の加入率が低下傾向にあり、市全体として令和5年度には60%となっている旨を「3. 広がる地域課題・縮む地域コミュニティ」において記載しています。	1
96	住民の負担感、不満、意向、希望などを把握するため、各センターに市が出向いて住民意識調査や意見聴取を行うべきである。また、それらを毎年か隔年ごとに行うと記述すべきである。	本ビジョンの策定にあたっては、「5. 地域コミュニティのあり方に対する意見」に記載したように、地域団体や関係者へのヒアリングを延べ140回以上実施しました。また、地域に対する関心、参加の障壁、今後必要と考える活動、地域活動に期待することなどを幅広く把握するため、WEBアンケート調査を実施し、約6,000件の回答を得ました。	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
		引き続き皆様の声を丁寧に集めながら、「共助が働きやすいまち(Mutual city)」の実現に向けて取組を進めてまいります。その具体的な方法については今後検討してまいります。	
97	自治会・町内会に対する市の助成や支援の実態(金額も含む)、今後の見通しや施策について、資金面・非資金面それぞれの現状と今後を記述すべきである。	本ビジョンは地域コミュニティの将来像や方向性を示すものであり、個々の団体に対する支援の現状や方向性、見通しを掲載するものではありません。	4
98	素案 27 ページの「本来、自治会等・・・意義のあることを整理しながら・・・見直しを・・・求められます。」との記述に関し、整理と見直しの要素、主体、考え方、期限を具体的に挙げるべきである。見直しの主体は市であることを明記することが重要である。	「5. 地域コミュニティのあり方に対する意見」に見直しの主体が北九州市である旨の記述を追加しました。 なお、その見直しの考え方や要素、期限等については、取組を進めていく中で検討してまいります。	2

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
≪6. 「共助が働きやすいまち (Mutual city)」へ≫			
99	子どもたちが地域の伝統行事を楽しむことは素晴らしいことだが、参加を強制されていないか、一部住民による不適切な運営がないか配慮も必要である。 地域の活動が正常かを確認するため、行政や大学、NPO などが第三者的に関わる仕組みが大事である。	「7. 地域コミュニティのリ・デザイン」に記載したように、多様な主体との協働を促進してまいります。 また、北九州市としても現在、「自治会運営の手引き」等により運営に対する助言を行っており、今後とも運営の適正化に向けた助言を継続してまいります。	1
100	将来像「共助が働きやすいまち」に、子どもやシビックプライドの視点がほぼ見当たらないことを懸念する。 地域コミュニティの持続可能性には将来の担	ご指摘を踏まえ、「6. 「共助が働きやすいまち (Mutual city)」へ」の記述を見直すとともに、「8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例」において、子どもを中心とした活動が地域コミュニテ	2

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	い手を育てる設計が不可欠であり、「子どもが地域に大切にされた記憶を持ち、大人になって地域に関わり続ける」という恩送りの循環こそが真の持続可能性である。 若い世代が地域への貢献意欲を持っていない背景には、地域に育てられたという手触りのある確信を持っていないことがあるのではないか。 将来像に「子どもが地域の温かさを実感できること」を明示的に位置づけ、教育とコミュニティの接合点を設計することを強く求める。	ィの参加の重要なきっかけの1つである旨の記述を追加します。	
101	「Mutual city」という言葉について、北九州市には既に「すしの都」や「うたのまち」など多くの呼称があり、最初はインパクトがあっても、そう長くないうちに埋もれてしまうのではないか。	「共助が働きやすいまち(Mutual city)」は、行政や民間サービスとともに、これからの社会において地域コミュニティ(共助)が必要であり、その機能がしっかりと発揮される姿を端的に表したものです。今後、市民の皆さんに浸透していくよう取り組んでまいります。	1

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
≪7. 地域コミュニティのり・デザイン≫			
102	「より一層自律的な運営へ」とあるが、自律とは何でも引き受けることではなく、何を担い、何を担わないかを自分たちで決められることである。 現状は過負荷が常態化しており、自律を求めるなら行政が先に条件を整える必要がある。 「地域は温もり(受容・見守り・居場所)に集中する」という方針を明示し、役割の上限を明文	ご指摘のように、人と人とのつながりや地域の安全・安心といった地域の重要な役割を維持しながら、その役割の上限を含め、今後何が必要で、何を継続するのかを自主・自律的に見直すことのできる環境づくりが重要と考えており、その趣旨を「7. (3)より一層自律的、能動的な運営へ」に記載しています。 そのため、まずは地域団体から負担が大きいとの声が大きい行政からの依頼事務の見直しに着手するな	1

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	化すべきである。 地域の自主性を引き出すには、前提となる「手放す設計」を行政が先行して示すことが不可欠である。	ど、取組を進めてまいります。ご提案の指標については、今後の取組の中で参考とさせていただきます。	

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
----	-------	-------	------

≪8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例「地域 × “○○”」≫

103	「地域×○○」の成功事例を積み上げ、特定地域の特殊な成功に終わらず、市全体に横展開できる再現性のあるモデルが生まれることを期待する。	「8. 地域に多様な力を掛け合わせる実践の考え方の例(7) 実践から学び、広げる「地域 × “課題解決モデル”」」に記載したように、北九州市は市域が広く、その中には様々な特徴と歴史を持った地域があります。本ビジョンに示した将来像の実現のためには、この地域ごとの違いを踏まえながら取り組むことが重要と考えています。 地域と行政が一体となり、課題解決のモデルを生み出せるよう取組を進めてまいります。	1
104	「次の10年地域づくり先行モデルプロジェクト」の選定では、「すでに対話の文化と当事者意識が稼働している校区」を優先すべきである。 現場の暗黙知が蓄積された地域で実証を重ねるほうが、形式知化のスピードと精度が格段に上がる。 異なる地域特性を持つ複数地域を選定するとあるが、土台となる土壌の整っていない地域への導入は失速のリスクが高いため、選定基準を明確にした段階的な展開が必要である。	「次の10年地域づくり先行モデルプロジェクト」の具体的な選定方法については、現在検討を進めており、ご意見は参考とさせていただきます。	3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
105	先進事例を用いて効果が説明されており、分かりやすいと感じる。ただ、それらをそのまま北九州市で落とし込めるとは限らないため、地域ごとの特徴を反映できるよう、応用しながら取り組んでいただきたい。	「8.(7) 実践から学び、広げる「地域 × “課題解決モデル”」」に記載したように、北九州市は市域が広く、その中には様々な特徴と歴史を持った地域があり、この違いを踏まえながら取り組んでまいります。	1
106	子どもを主体に据えた企画は、大人を地域へ引き込む強力な手段である。素案 p.37 の「地域 × 居場所」の施策において、子どもが主役・主体となれる具体的な企画や場づくりの視点を明示すべきである。	ご指摘を踏まえ、「8.(4)つながりを生む場をつくる「地域×“居場所”」」の中で、子どもが集うサードプレイスの視点を具体例として追加しました。	2
107	PTA 子どもフェスタのような「子どもを通じた地域参加」の好事例は、地域全体の活性化に直結する。こうした事例を、素案 p.40 の「地域 × 課題解決モデル」の実践例として積極的に収集し、横展開すべきである。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の事業の参考とさせていただきます。	3
108	周囲の協力があってこそ地域活動は成り立つ。素案 p.40 の「ケイケン・タカラ プロジェクト」の対象は、地域活動参加者個人にとどめず、参加を支援・後押しする企業・職場も含めるべきである。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の事業の参考とさせていただきます。	3
109	地域活動への参加は企業にとって将来的に自社へ返ってくる「地域への投資」である。素案 p.37「地域 × 企業・大学・NPO」において、この認識を広めるための表彰制度や感謝状などの具体的な仕組みを構築すべきである。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の事業の参考とさせていただきます。 なお、現在、自治会活動の推進に寄与し、住みよい地域づくりを10年以上にわたって支援されている事業者を表彰するための表彰制度を設けております。	3

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
110	デジタル化による情報発信の強化は、若い世代の参加促進に繋がる。素案 p.36 の「地域のチカラつなぐプロジェクト」において、学校・PTA 単位の情報発信と地域団体の情報発信が連携できるプラットフォームの導入・構築を検討すべきである。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	3

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
《9. 課題を価値に変えるフロントランナーへ》			
111	素案 p.45 の「ウォーカブル・コミュニティ・シティ」の将来像に、子どもが安心して育ち、愛着を持てるまちであるという視点を明示的に組み込むべきである。	ご指摘を踏まえ、「9. 課題を価値に変えるフロントランナーへ」の「ウォーカブル・コミュニティ・シティ」の具体例の中に、子どもの成長とまちへの愛着を育む記述を追加しました。	2

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
《その他》			
112	3 人の子どもを育てているが生活が苦しい。給付や商品券などで対応してほしい。	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5
113	数年前に、「市街化区域から市街化調整区域への見直し」(都市計画法)に関して、修正案を地域団体に作成させた事例がある。これは本来、行政が担うべき仕事である。	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5
114	生ごみ処理機器(ルーフェン等)への補助や、	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の施策や事業	5

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。

「北九州市地域コミュニティビジョン(素案)」
に対する市民意見の概要及び市の考え方

【意見の反映結果】
1:既に掲載済
2:追加・修正あり
3:今後の参考とするもの
4:追加・修正なし
5:その他

NO	意見の概要	市の考え方	反映結果
	ゴミ収集ボックスの設置補助を充実させ、ゴミ散乱防止と温暖化対策を進めるべき。	等の参考とさせていただきます。	
115	防災グッズのリュックを各家庭に1個ずつ配布すべきである。必要性は分かっているが実際には用意している人は少ないため、基本のセットがあれば各家庭で必要なものを追加でき、防災意識も高まると思う。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	5
116	小倉織を広くアピールするため、市長をはじめ職員の々が小倉織のネクタイを着用して北九州をアピールするとよい。	ご意見は、関係部局とも共有し、今後の施策や事業等の参考とさせていただきます。	5
117	高齢者への特に一人暮らしの方への支援を積極的にシェアしてほしい。	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5
118	少子化への支援(人口が減っている為)	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5
119	身体障害者・精神障害者への支援	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5
120	若者の政治離れへの解消	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5
121	若者の引きこもり・いじめでの自殺を減らして欲しい	ご意見は、関係部局へ共有させていただきます。	5

※ご意見は一部を要約及び分割して、項目ごとに整理して掲載しています。